

---

# 道化に救済を。

潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

道化に救済を。

### 【Nコード】

N2277BA

### 【作者名】

潤

### 【あらすじ】

昼は青年、太陽が沈むと道化の姿へと変わる。

道化は夜な夜な不幸の匂いを嗅ぎ付け人々を救済していく。苦しみから解き放っていく。

ただし道化が直接手を下すわけではない。

本人達に気づかせてあげるだけ。救われる道があることを。

こんなことを繰り返す道化はなにが目的なのか？

つかみどころのない道化は今日も行く。  
ルンタッタッソ　ルンタッタッソ

死、血などの表現が多少あります。

君を救ってあげる (僕を救って)

悲しい、嬉しい、つらい、楽しい、劣等感、優越感。

泣き、笑い、騙し、騙され、出会いと別れ。

さあさあ！

僕は愉快な道化！みんなを笑わせてあげる！

今日も僕はみんなの元へ行くよルンタッタッルンタッタッ

ああ、いとおいしい人間。

ああ、にくらしい人間。

さあ今行くよ。

道化「さあ、今日もみんなを救ってあげなきや」

道化と名乗る男は上機嫌で鏡に向かい化粧をしている。

道化「よし、完璧」

そう呟いて目元に涙の雫をつけたし満足げに微笑んだ。

軽快なステップを踏み鼻唄をならし扉の向こうへ向かう。

太陽が沈み夜が街を覆った頃の御話し。

街の人気のない路地裏、そこには道に転がり動かない男が一人。  
すぐそばには、転がる男に寄り添う女が一人。

道化「匂うな〜 鼻をくすぐるな〜」

女は無言のまま道化へと視線を移動する。  
重そうに口をひらき女は言った。

女「邪魔しないで。」

道化「僕は道化、笑わせてあげるよ？」

女「遠慮するわ。今、とても幸せなのよ。」

道化「幸せ？幸せ？摩訶不思議 なぜ幸せ？」

女「愛してる男が私のものになったのよ。もういいでしょ、どっか行って。」

道化「そりやめでたい その人形がきみのもの」

女「……いい加減にして！人形じゃないわ！よく見てみなさいよ！」

道化「うん、見えるし見てるね その人形、目が開いたままだからね ほら見てる」

道化はそう言いながら人形と呼ぶ男の顔を、女のほうへと乱暴に向けた。

道化「ほら、目が合った」

女「……やっと、私を見てくれた。これからは私だけを見てくれるわよね？」

男に向かって女は問いかける。

道化「むーりっ」

またもや道化は男の顔を乱暴に動かす。その生氣のない目は道化へと移動した。

その瞬間女は

女「返して!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

地面に落ちていたナイフのようなもので道化を切りつける。

しかし、道化は身軽な動きで宙に一度円を描き一歩後ろへヒラリと

着地して笑う。

道化「おっとつとつ、くるくる回る」

女はそんな道化の言葉を聞いているのかいないのか、男を両手で抱え睨んでいる。

女「この人は私だけのものよ！私だけを見て愛してくれるのよ！私以外に見向きもしないの、ねえ？そうでしょう？だってすぐどこかに行ってしまう貴方なんてもういないものね？私が消してあげたものね？」

返事は当たり前前の如くない。

道化「君は消したね　でも愛してくれる人を消した、消した

殺したね」

女「これで……あなたはこれから私だけの……フッフ、愛してるわ。」

道化「おやあゝ？おかしな人だな」人形を愛してる？あはは　じやあなぜ人形にしたの？ねえ、なぜ殺した？」

女「彼を私だけのものにするためよ。」

道化「人形は動かない、意思もない、だから君を愛してない」

女「愛してくれるわ！だって彼はっ……！？」

言葉を発している途中、女は驚き目を見開く。その原因は道化だ。今、女の顔のすぐ前に道化の顔がある。先ほどまでは距離があったはずなのに。

道化はニタリと笑った。

道化「君の御話しは終わり あきたよ 気づいてるくせに気づかないふり？君は自分のことばかり、感情ばかり彼に押し付けて、彼が他のレディに逃げたのも納得だ」

そう良いながら道化の右手は女の首に優しく絡み付いていた。

女「だ…だつて、彼を一番愛しているのは私なのに…」

道化「それを決めるのは君じゃない 可哀想にね、君に惚れられたばかりにお人形の仲間入り」

女「私にはそれしか方法がなかった…私が彼を殺した…？私が？」  
女はだんだんと勢いをなくしていく。気づかないふりをしていたことに気づいたかのように。

道化「そう き・み・が」

女「っ！…あ、いや…いやっ！」

必死に男を揺さぶりだす。その時、女の首に絡み付いていた右手は道化とは違う右手が絡み付いていた。

女「…え？」

手をたどり相手を確認する。

その手は動かないはずの

男の 手。

女は喜びと戸惑いの表情を繰り返す。

男「俺と一緒にいたいか？」

女「え、ええ！もちろんよ！さっきはごめんなさい、痛かったわよね。」

男「じゃあお前が俺のいる場所にきてくれ。もしお前がたどりついたらなら、きつとずっと一緒だ。」

女は一瞬啞然としたが、すぐに何かを悟ったように微笑んだ。

女「……………わかったわ。今行く、これからはずっと一緒ね、永遠に。」

そう言うのと先ほど道化を切りつけようとしたナイフを手に取った。

絡み付いている男の手ごと女は自分の喉めがけてナイフを突き刺した。

女と男は倒れこみ、女はなにかを男に向けて伝えようとしているが、その声は聞き取れない。

あたりは静寂に包まれた。

静寂を裂く鼻唄が流れる。

そこには倒れている二人からすぐ近くにある建物の屋根に腰掛け、見下ろす道化の姿。

その手には死んでいる男と繋がる長い糸。

翌朝、街の交番の前に人だかり、ざわめく通行人達の目線の先には  
昨夜の男女。

糸が切られた糸人形のように動かない。しっかりとお互いの手を握り合う姿。

しかし、女の閉じられた目元には  
涙の雫が描かれていた。

それはまさに道化の目元かのようなようだ。

通行人にまぎれ無言で二人を見つめる青年が一人。  
帽子を深くかぶり表情は隠れている。青年は立ち止まっていた足を  
上げ街中へと歩きだす。  
そして小さな、小さな声でこう呟いた。

青年「愛だのなんだのくだらない。愛は毒にもなる。だからそんな  
毒から救ってあげたよ。もうこれで二人は苦しくない。二人に幸が  
あらんことを。」

青年は帽子をくいと手で少しあげ空を見上げた。

青年の目元には

涙の雫が描かれていた。

第一話〜愛の毒〜

## 二人目

昼の街は騒がしい。商人の声飛び交い活気に溢れている。

青年「おばさん！これ5つ下さい！」

元気な声で果物を買う青年の手には既にもちきれないほどの荷物が抱えられていた。

商人「はいよー！にいちちゃん今日も元気だね！」

青年「おばさんほどではないですよ！繁盛してるみたいでなによりですね！」

商人「あつはは！まだまだ若い者には負けてらんないからねっ！」

青年「ふふ、じゃあ僕はこれで。」

そう言つて荷物のせいとかヨロヨロと歩きだす。  
少しあるいた先には古い教会があつた。

青年「こんにちはー！神父様ー？」

呼び声が聞こえ奥から中年男性が顔をだす。

神父「ああ、君か。今日も悪いね。」

青年「いいえ、足が不自由な神父様の代わりに僕が買い出しに行つてるのはやりたくてやつてることです！お気になさらず。」  
照れくさそうに笑いながら言う。

青年「それより、最近街で子供達が消える事件が絶えないみたいで

すね…。」  
先ほどとはうって変わった表情をしている。青年の言う通り最近街で子供の行方不明が相次いでいる。犯人はいまだ特定されていないようだ。

神父「そうみたいだね。本当に許せない、でも神は見ているから大丈夫だよ。きつとすぐ捕まる。さあ私達も神に祈ろう。」

青年「ええ、そうですね。祈りを捧げましょう。」  
二人は神へと祈った。

青年「でわ神父様、僕はこれで。また来ますね！」

神父「ああ、待っているよ。気をつけて帰るんだよ。」

青年「はい。」

青年は教会をあとにした。それから数時間後、街に夜のとばりがおりました。

ルンタツタツン ルンタツタツン  
軽快なリズム、鼻唄をならし遊びながら歩いているかのような人影が月に照らされ浮かび上がる ……そう、それはまさに道化の姿。

道化「今日も救ってあげなきゃ ルンタッタツン」  
たどり着いた先は…教会。

一ヶ所だけ、ぼうつと小さな灯りが見える部屋がある。  
道化はその部屋を視界に捕らえた瞬間、大きく踏み込んだ。二階く  
らいの高さの位置にある部屋へと目掛け飛んだ。

………バリーンッ!!

窓を割り中へと飛び込んだ道化は、くるりと着地し部屋の住人に微  
笑んでこう言った。

道化「君を救ってあげる 笑わせてあげる」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2277ba/>

---

道化に救済を。

2012年1月6日02時49分発行